



「世界初」となるレーザーセンシングによる広葉樹の樹種特定技術に関する 現地検討会のお知らせ

信州大学「レーザーセンシングによるスマート精密林業技術の開発」のコンソーシアム（代表 信州大学農学部 教授 加藤正人）は、政府の進める未来戦略 2020「農林水産業全体にわたる改革とスマート農林水産業の実現」でベストプラクティスとして支援を受けながら先導的に実証研究を進めています。『スマート林業技術』のさらなる展開に向け、令和 2 年度現地検討会を北信森林管理署木島山国有林のカヤの平高原ブナ天然林で行います。

信州大学は、これまで関係機関と連携を図りながら、スギなどの針葉樹人工林を対象にドローンレーザーによるスマート精密林業技術の開発を進めてきました。

現在、林業成長産業化に向けて解決しなければならない大きな課題として、広葉樹資源の有効活用が挙げられています。広葉樹林は全国的にみると森林面積の約 5 割に達し、長野県内ではその約 4 割を占めています。クリやミズナラなどの有用広葉樹は高値で取引されるのですが、林内では樹種判定や単木情報を容易に得ることができない場所もあり、需要に対応できないことが多く、結果としてその利用は県全体の森林生産量の 4 %程度に留まります。さらに、それらの大部分は安価なチップ材として販売されています。

コンソーシアムではこの問題への対応策の一つがドローンレーザーによるセンシングと考えています。上空からの計測によって、樹種や樹高などを自動的に導出できれば市場での要求に迅速に対応できるだけでなく、林内での作業量が軽減されることで他産業に比べて発生率が高い林業労働災害の防止にも貢献できると考えています。

今回、北信森林管理署管内の固定生長量試験地において、ブナの生長量を計測し、検証を行いました。

信州大学は令和 2 年度、「世界初」となるレーザーセンシングによる広葉樹の樹種特定技術により、今まで困難だった有用広葉樹の特定と単木情報の抽出技術の開発に成功しました。

10 月 21 日（水）、先進技術による「広葉樹の樹種特定技術」の現地検討会を開催いたしますので、ご取材いただきたくご案内申し上げます。何卒宜しくお願い申し上げます。

記

◆開催日時：令和2年10月21日（水）午後1時～2時（受付開始 30分前）

※雨天順延 令和2年10月22日（木）午後1時～2時（受付開始 30分前）

◆主 催：信州大学、中部森林管理局北信森林管理署

◆集合場所：木島平村カヤの平高原キャンプ場 駐車場
〒389-2303 長野県下高井郡木島平村

◆内容

- ・ドローン及びモバイルレーザのデモンストレーション
- ・解析画像の3D動画の実演
- ・ブナの固定成長試験地の単木情報

<お問い合わせ>

〒399-4598 長野県上伊那郡南箕輪村 8304

信州大学農学部 事務局（担当：藤川）

tel：0265-77-1305 E-mail：fujikawa_shougo@gm.shinshu-u.ac.jp